

『へっぽこ”の光岳聖岳縦走記

聖岳からの360度パノラマはええな～！！』

菅野靖司

8月14日（火）～19日（土）にて、友人とテン泊縦走して来ました。光岳、聖岳からは、絶景を堪能する事が出来ました

8月14日（火） 曇りのち雨 5時：芝沢ゲート⇒6時：易老渡登山口⇒面平⇒11時：易老岳⇒14時：光岳小屋

芝沢ゲートからの5Km車道を歩き、ようやく登山口到着。給水と朝食を取り出発！ここまで、自転車で入る人が数名いました。

樹林帯を登り易老岳到着。樹林に囲まれたチョット感動が少ないピークでした。三吉平からゴロ石の川原の様な登山道をヒイヒイ”言いながら登り光岳小屋到着、長かったよ～！！ザレ場のテン場にテントを貼り、小屋で衣類を乾かせてもらいました。

夜は快晴で富士山南アルプスの稜線の上に満天の星空が見れて最高でした。天気予報は雨です？

8月15日（水）曇りのち雨 5時：光岳小屋⇒光岳⇒光岳小屋⇒イザルヶ岳⇒易老岳⇒仁田岳⇒茶臼岳⇒14時：茶臼小屋

朝霧の中、光岳登頂！ここも樹林帯の中で感動イマイチでも南アルプス始まりの山なのでOK！小雨が降る中、仁田岳へ

『大好きな雷鳥のお出迎えを受け気分は、最高！でも仁田岳は霧の中。』雨風が一段と強くなる中、茶臼岳に到着。

お団子型の山頂標識の前でパチリ”気温11度ハードシェルが有難い。狭い茶臼岳のテン場に豪雨の中テントを貼り就寝

8月16日（木）雨 6時：茶臼小屋⇒8時半：上河内岳⇒11時：聖平小屋

朝から豪雨”びしょびしょのテント、衣類をザックに詰め出発。この日の工程は短い、豪雨と強風で気が滅入る。

霧の中の上河内岳を登り早々に聖平小屋到着。『名物”ウエルカム、フルーツポンチが美味し～い！！』ありがとうございました。

フルーツポンチの力を借りて強風豪雨の中テント設営、さすがにこの日は2張りでした。

8月17日(金) 晴れ 4時：聖平小屋⇒7時：前聖岳⇒奥聖岳⇒8時：前聖岳⇒10時：兎岳⇒12時：前聖岳⇒14時半：聖平小屋

快晴の聖岳山頂からの360度パノラマは素晴らしく、日本アルプスの頂上に登った気分でした。東から富士山、北に赤石岳、槍ヶ岳。西に駒ヶ岳、恵那山。南に光岳と見えに見えませんでした！！

今までアルプスの山頂から数々のパノラマを見てきましたが、一番のお気に入りとなりそうです。今度は、秋にも登るぞ”

兎岳では、トランスジャパンアルプスレースの参加選手と遭遇しました。大きな声で『ガンバレ！』と応援して来ました。

帰りの聖岳で昼食&お茶で至福のひと時を頂き下山しました。

8月18日(土) 晴れ 5時：聖平小屋⇒西沢渡⇒便ヶ島⇒11時：易老渡登山口⇒12時：芝沢ゲート
天気も良くひたすら下山の日でした。西沢渡りの手引きゴンドラは疲れるが面白い渡しです。

とにかく、アプローチが長い南アルプスですが、皆さんが登る理由が分かりました。『え～よ”ほんと！』
来年は、赤岳からの南アルプス縦走を心に誓い後にしました。



会津駒ヶ岳 登山教室下見

2018年8月22日（水） 芳賀、太

登山教室 10 月実技に「会津駒ヶ岳」山行が予定され、登山計画を作成するために下見を実施。

午前 5 時にいわき市平を出発し、8 時 18 分松枝岐村グラウンド・テニスコート駐車場に到着。ここは山開きで臨時駐車場になるが、登山口直下に駐車できない場合の想定で、ここから国道を歩く。

8 時 30 分、林道入口。トイレ前の案内板マップを確認して舗装林道を進む。近道しようとしたが水量の多い沢を見て引き返し、駐車可能箇所を調べながら、そのまま舗装道を進む。

9 時 8 分、滝沢登山口。平日にもかかわらず登山口直下の駐車スペースは満車状態。やはりマイクロバスの場合ここまで来るのは無理。木製階段を上り、いよいよ登山開始。登山道は十分整備されているが、気温と湿度が高く、登りの連続はきつい。登山教室のときに気候が良くなって雨が降らないことを祈る。

10 時 42 分、水場入口。確認のため水場まで下りる。水は冷たく、量も十分。水場入口を過ぎるあたり少しずつ針葉樹が増え、植生がかわっていく。空気も心なしか爽やかになっていくが、登りは続く。登山道は石が詰まった階段や木道が見られるようになる。

12 時 11 分、ベンチのある展望デッキ。天気よく山頂がきれいに望める。登山道が緩やかになって池塘が見られ会津駒ヶ岳らしい風景が始まる。暫らく行くと驚いたことに自転車を曳いた男性とすれ違う。

12 時 33 分、駒ノ小屋。池塘の前のデッキで昼食を取って、まったりと過ごす。山頂は目の前の丘。素敵な眺めに登頂はどうでもよい気分だが、目的を思い出し「上り」始める。

13 時 32 分、会津駒ヶ岳の山頂。山座同定の案内板はあるが、樹木と笹藪で、あまり眺望はきかない。燧ヶ岳が見え、そこを登っている仲間達に思いをはせた。木道を下りてゆくと、眼下に広がる草原と駒ノ小屋、遠くに燧ヶ岳ほか名だたる山々が望める。可能なら登山教室の皆にも、この眺望を、と思いながら下山を続ける。

14 時 53 分、水場入口。すれ違う登山者の多くは小屋泊の予定とのこと。時折だが雲行きがあやしく、高度が下がるにつれて蒸し暑くなる。加えて地形の関係で日が傾き始めると登山道が陰りだした。登山教室のある 10 月には日暮れも早く暗くなって危険が増すかもしれない。早く下山しなければ。

16 時 04 分、滝沢登山口。登山アプリで下山届を提出し、LINE チャットで仲間にも報告。お疲れ！の書込みに元気づけられた。駐車場まで歩く登山者二人は「まるで敗残兵のようだ」と互いに笑った。

コースタイム

8：30 林道入口→9：08 滝沢登山口→9：30 営林署看板→9：47 山頂まで 4.1km 標柱
→10：07 山頂まで 3.7km 標柱→10：42 水場入口（山頂まで 2.9km）・10：47 水場
→11：10 山頂まで 2.7km 標柱→11：55 山頂まで 1.7km 標柱→12：11 展望デッキ
→12：33 駒ノ小屋（昼食）13：16→13：26 会津駒ヶ岳山頂・中門岳方面分岐
→13：32 会津駒ヶ岳山頂→13：48 駒ノ小屋→14：03 展望デッキ→14：53 水場入口
→16：04 滝沢登山口→16：31 林道入口

（文責：太）



北ハケ岳縦走（二日目、2018.8.19）

報告者：教室で一番の長老者 渡邊美一

参加メンバーは、一日目を参照願います。

時刻	イベント
5:25	朝食（白米、味噌汁、肉団子、卵焼き、漬物他）
6:00	縞枯山荘 出発
6:33	縞枯山頂（2,403M）着
7:00	縞枯山展望台（2,386M）着
7:22	縞枯山、茶臼山 鞍部
7:40	茶臼山頂（2,384M）着
7:50	茶臼山展望台着
8:45	大石峠
9:00	麦草峠駐車場 到着
9:10	白駒の池駐車場（白駒の池探索チームを待つ）
10:00	白駒の池駐車場 発
10:40	八峰の湯 着（入浴、昼食）
12:00	いわきへ出発
17:00	いわき市合同庁舎着、解散

感想

- ・霜の降りた木道を二日目行動開始した。2000M級の山の清々しい朝を感じた。
- ・「白駒の池探索チーム」と「麦草峠止まりチーム」の二班に分かれて出発。
- ・ダケカンバ倒木の間や苔一色の林の登山道を進む。縞枯山の名前の通り、縞模様の山であった。
- ・縞枯山、茶臼山の展望台から見える、南ハケ岳、南アルプス、中央アルプス、北アルプス、立山連峰の眺望に大感激。
- ・今日は3時間の山行であったが、晴れ男と晴れ女がそろい、二日間天気に恵まれた大満足の「北ハケ岳山行」であった。
- ・計画されたリーダーや、指導された山岳部のメンバーに感謝します。また、学習教室のメンバーも十分に一泊二日の山行を堪能できたと思います。



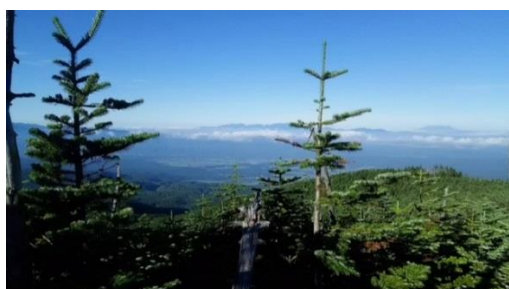
「食べ残し」について、先輩メンバーより指導あり。調理された方への感謝と、環境保全ため極力ゴミを極力出さないために「完食すべし」とのこと。
(イエローカード)



昨晚、メンバーで自己紹介をし交流をした談話室。おいしい焼酎やワイン、梅酒、ウイスキーを痛飲。8
また、合同庁舎出発時の件でビールの差し入れあり。
喉にグッときました。



展望台からの眺望は最高





「展望台」標識の上に、南ハケ岳の赤岳、右手に南アルプスが見えます。

飯豊北部スケッチ山行

2018年7月29～31日

秋葉信夫

以前に大石ダムから飯豊山荘へ縦走したことがある。その時泊まった杓差岳避難小屋にもう一度泊まりたい。通り過ぎた水が豊富な頼母木小屋に泊まりたいとの思いで出かけた。

7月29日 杓差岳避難小屋へ

午前4時に自宅を出発、猪苗代パーキングで仮眠。奥胎内ヒュッテから舗装道路を歩きはじめる。奥胎内ダムからは砂利道となる。早くも暑くてバテそうだ。

足の松尾根を登るが大石山が見えているがやけに遠い、急登や岩場もあり結構大変だ。休みを頻繁に取り、熱中症にならないようにゆっくり歩く。

杓差岳避難小屋には先客が1人。水場まで下るが流水は無くかろうじて溜り水を汲み、登り返しに15分かった。佐渡島に夕陽を眺める就寝。

いわき湯本IC4:00⇒奥胎内ヒュッテ 8:15～30⇒足の松登山口 9:30⇒大石山 13:30～50⇒杓差岳避難小屋 15:30



7月30日 杓差岳から地神山へのんびり尾根歩き



稜線は花畑、展望も良い。時間はたっぷりあるので要所でスケッチをしながらのんびり頼母木小屋に向かう。先日登った大朝日岳も遠望できる。それでも午前中に小屋に着いてしまったので、地神山まで脚を伸ばし飯豊本山や飯豊特産

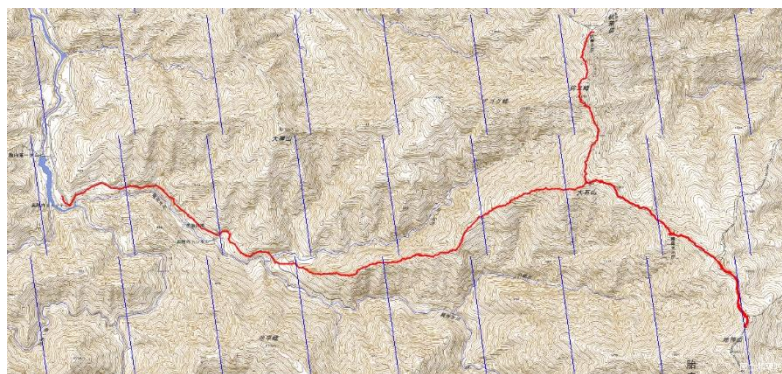


のイイデリンドウ等を眺め戻る。

小屋は流水がある素晴らしい所だ。冷たい水で冷やした日本酒、缶ビール、コーラ、ジュース類を売っている。缶ビール 500ml 1,000円で喉を潤す。宿泊 20 名、テント 5 張り。

下界は 36 度というのに涼しい稜線で、スケッチブックに 3 枚、はがきに 12 枚スケッチした贅沢な 1 日であった。

杓差岳避難小屋 6:00→大石山
9:30→頼母木小屋頼母木小屋 11:00
～11:30→頼母木山 12:00→地神
12:30～13:30→頼母木小屋 14:30



7月31日 下山

時間があるので一般道に戻る。

頼母木小屋 4:40→登山口 8:30→
奥胎内ヒュッテ 9:30→自宅 15:30

餓鬼岳 2647.2m、唐沢岳 2632.4m

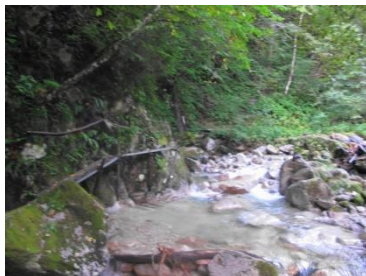
2018 年 9 月 18～19 日

秋葉信夫

燕岳の北側、常念山脈の北側に位置する。白い花崗岩の岩稜を従えた険しい山である。以前に船窪小屋から七倉ダムに下るとき、高瀬川を挟んで燕岳・餓鬼岳の手前に大きな塊の唐沢岳が眼前に聳えている。それ以来登ってみたいと思っていた。

9月18日 餓鬼岳へ

前夜、白沢登山口で軽自動車に変えてから始めての車中泊、中々快適である。背戸峨廊の沢コースのような沢沿いの路を進むが、途渉があったり、梯子、鎖場、橋掛や、足場を切ってあったりするが滑りやすく慎重に進む。



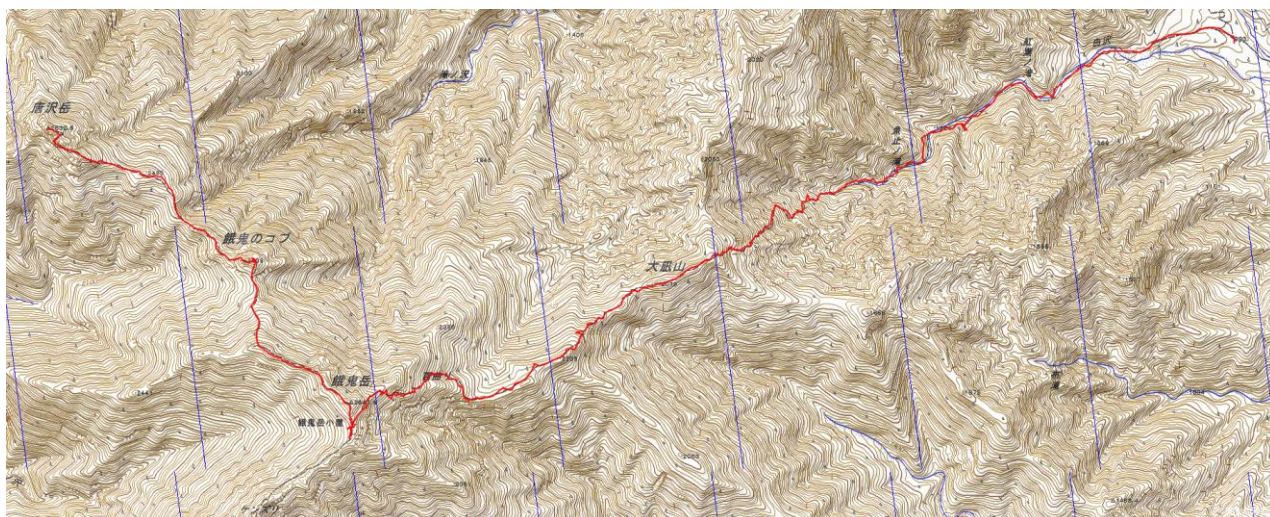
最終水場から 3L の水を背負う。大尻山まで林の中の急登が続く、大尻山からは緩やかな登りになる。ヒラタケを採り夕食のおかずにする。

百曲りから、再び急登になり餓鬼岳小屋に着く。長野側はガスで展望なし、富山側は槍ヶ岳から裏銀座の展望が広がっていた。

テント場は独り占めでしたが、明日の好天を期待させる放射冷却で冷え込み、シュラフカバーと羽毛の上下のみで寝袋は持たない身には、寒さに震えた長い夜になりました。



白沢登山口 5:45→最終水場 7:25→大尻山 9:50→百曲り 11:25→餓鬼小屋 12:20



9月19日 唐沢岳へ

ヘッドランプを点けて出発。餓鬼岳山頂から唐沢岳の登山道に入る。残念ながら朝日は望めなかった。展望台からは林の中を大きく下り登り返すと岩塊を重ねたような餓鬼のコブ、眺めも良くここで朝食とする。

急な岩稜を下り、いったん樹林に入り何度か登り下りを繰り返す。岩を大きく巻き、ざらつく急坂を登る、岩場にロープ等が付けてあるが厳しい登りだ。岩稜を進むと唐沢岳頂上。



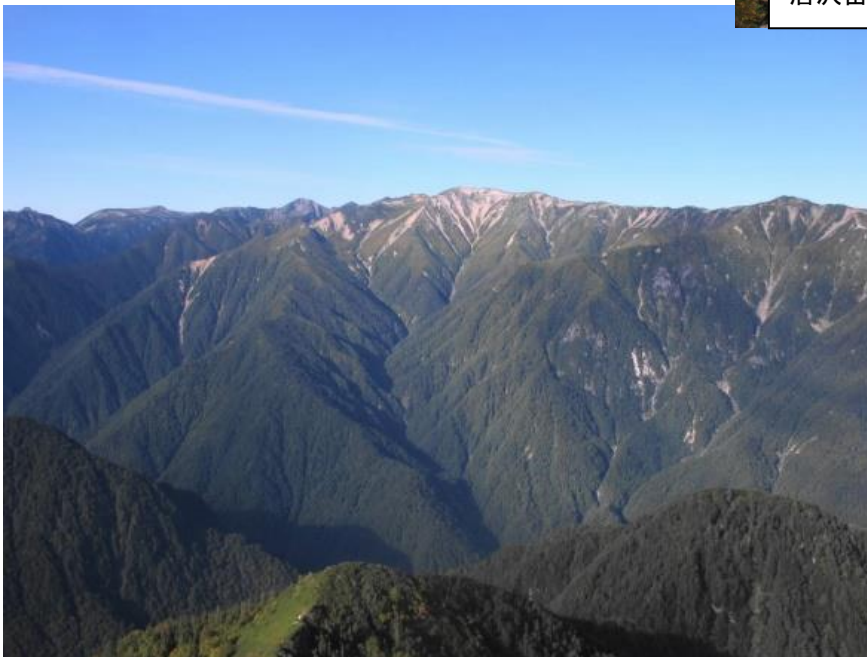
餓鬼のコブから唐沢岳、後方は立山、針ノ木方面

360 度の展望。餓鬼岳～燕岳～槍ヶ岳～穂高～笠ヶ岳、裏銀座の山々、鹿島槍ヶ岳等の後ろ立山の山、ハヶ岳、富士山、南アルプス、中央アルプス、南アルプス等、その雄大なパノラマに圧倒される思いでした。帰路は往路を忠実にたどる。女性 2 人組の登山者に会ったのみで、静かな山を味わえた、厳しくも満足の 2 日間でした。

テント場 4:50→餓鬼岳 5:00→展望台 5:30→餓鬼のコブ 6:00→唐沢岳 7:35～50→餓鬼のコブ 9:00→展望台 10:00→テント場 10:40
テント場 11:30→百曲り 12:00→大風山 13:00→最終水場 14:30→白沢登山口 16:10



唐沢岳頂上付近の岩稜



「月山」

2018 年 9 月 3 日～4 日(月・火)

山名 月山

岩根沢登山口～清川行人小屋～月山山頂～清川行人小屋(泊)～鳥川渡渉コース～岩根沢登山口

参加者 秋葉、下山田、栗崎(透)、栗崎(容) 計 4 名

台風多発の今夏。4 日は台風 21 号の影響が心配されたが、登頂は 3 日の内にすませ、午前中に下山すれば大丈夫だろうとの判断で計画実行。

水石トンネルに 5 時集合。一路山形県西川町へと走り、7:44 出羽三山岩根沢神社を通過。

ここから先は林道を走る。狭いなりによく整備されているが、後半にややハードな箇所もあり要注意。

8:26 水沢川からの登山道と合流した地点に駐車。(10 台位駐車可か)ここから歩き始める。

すぐに「岩根沢登山口」の道標が現れ、ここに入る。

なだらかに 12、3 分トラバース気味に進むと、サカサ沢を渡渉するコースと分かれるが、往路は地蔵森山方面(左)に行く。この後もずっと、「こんなに登らない道でいいのか?」と思うほど緩やかなトラバース道が続く。天候は曇りの白い空だが、次々に色々な花が現れるし、幻想的な沼が現れたり、樹皮の美しいブナを見上げたりして飽きさせない。曇りな分、暑くないのも助かった。また、ところどころに池塘や湿原も現れ、花の終わったミズバショウの葉なども見られた。

さすがにだんだん飽きてきた頃、そこそこの急登が始まり、ここまでの仇をとられるように汗をかかされる。150m ほどの登りだったか。

12:18 やっと清川行人小屋への分岐に。登山道を右(東)に折れ、緩やかにトラバースしながら下り、湿原の草地を、これまたたくさんの花に迎えられ登り下りしていくと 12:42、可愛らしい赤い屋根の白い小屋・清川行人小屋に到着。2階建ての、手入れの行き届いた立派な小屋だ。

ここでサッと昼食を摂り、13:12、月山山頂に向けて軽身で再スタート!

(下山田さんはここで待機することとし、3人で山頂へ向かう)

歩き始めてほどなく、小屋までの道とはまるで別の、とてつもなく広い大斜面が我々を迎える。

そして、空には青空が広がってきた。居残る雲も、それはそれでいい感じだ。

この広大な斜面に動いているのは3人だけ。少しの風も心地よく、暑くもなく寒くもなく。

この登りのガイドは斜面に延々渡された一本のロープ、そして目立つ大岩に描かれた矢印や○印だけ。

登りはともかく、下りでガスったり暗くなったりしたりしたらかなり大変だと思う。



とにかく広大な斜面だ。気持ちいいことこの上ない。

14:45 胎内岩を右に見て、月山詣でで賑やかであったろう昔を思い、15分も登ると月山神社、月山頂上小屋などの構造物が見えてきた。

そして 15:05、月山神社本宮前に到着! この中に入っても月山頂上・1984m の地点には立ち入りできないそうなので、ここを本日の山頂とすることにした。

ぐるりの景色を楽しみ、頂上小屋で今夜のビールを購入して、15:23 下山開始。



来た道を下り、16:55、小屋に帰着。

結局この日の小屋は我々4人で貸し切り。美味しく楽しく山小屋の夜を過ごした。

なお、この小屋には敷布団と毛布があり、ありがたく拝借した。

翌朝。雲はあるものの青空が広がる。悪くなる前に下山できそうだ。

朝食をとり、支度を整えて小屋を後にする。この素晴らしい小屋に感謝を込めて、

協力金の箱に一人1000円投入は忘れずに♪

帰路に就く前に、「360度の展望」という小屋脇の小高いピークに登る(登り下りとも5分かからず)。

ピークには小さな石の祠と鳥居が、霊峰月山を後ろに誇らしげだ。

飯豊は手前の稜線の陰になっていたが、雲海を伴った朝日の山々や吾妻の山々の姿を、最後のお土産に見ることができた。

小屋に戻り、6:30 下山開始。下りは、サカサ沢を渡渉するコースを行くことにする。

昨日の往路途中にあったお二人から「渡渉時の水かさは、ふくらはぎくらい」との情報をもらったことも参考になった。(何せ、往路のルートより1時間20分もコースタイムが短い!)

1時間20分ほどトラバース気味に緩やかに下り、その後はジグを切りながらしっかり下ろされ、

7:55、渡渉する河原に。大休憩をとりつつ、皆でベストな渡渉点を探し、渡渉。

スパッツ着用の二人は浸水ナシ、スパッツなしの二人は靴浸水。スパッツって偉いなあと改めて実感(笑)。

この後は、花や見事なブナの大木などを眺めながら登りトラバースの道を進み、

9:20 登山口に帰着。青空があるうちに無事下山できた。

下山後は素晴らしい存在感だった「出羽三山岩根沢神社」を見学。その後「大江町健康温泉館」にて立ち寄り湯。秋葉・下山田両氏おススメの「冷やしラーメン」に舌鼓を打って帰途に就いた。

この山行で出会った花……ゴマナ、タムラソウ、オヤマリンドウ、ミヤマホツツジ、オニシオガマ、オトギリソウ、センジュガンピ、ツルニンジン、オンタデ、トリカブト、ウメバチソウ、ハクサンフウロ、イブキトラノオ、イワショウブ、コバギボウシ、イワイチョウ、ミヤマリンドウ、ツリフネソウ、キツリフネ、その他名前がわからないもの多数。(文責 栗崎容子)

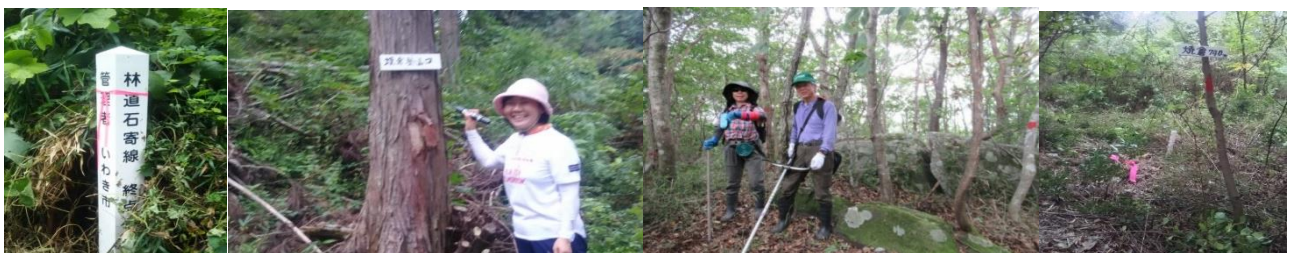


いわきの気になる山（13） 焼倉 740m

2018年9月24日

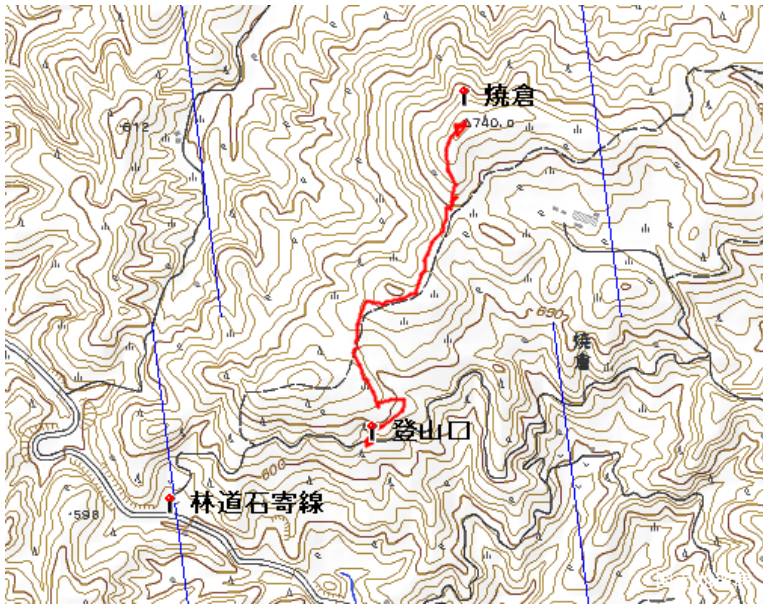
秋葉信夫、志尾崎、柏村

県道勿来・浅川線を、明神山登山口を通り過ぎ貝泊に向かって行き、右側の「林道石寄線」に入る。800m 程行くと登山口、駐車スペースもある。



作業道を辿るとやがて雑木林の笹の中を進むが、所々にある古い針金と碇子から、かつては広々とした放牧場だったことが伺われる。

頂上は三等三角点、近くに巨石がある。付近は樹木に覆われ展望は無いが、落葉した時期ならば、美しい雑木林と展望を楽しむことができるだろう。



前回（今年の春）に来たときは一面の藪であったが、頂上から東側の尾根筋が仮払われていて、杭やテープが付けてある。おそらく計画されている「たびと中央ウインドファーム」の調査であろう。

次回は反対側のいわき中央牧場の方から歩いてみたい。

西穂高岳～奥穂高岳

平成 30 年 9 月 22 日（土）～24（月） 渡辺（敏）・伊藤

秋分の日の連休にて、西穂高岳～奥穂高岳縦走へ行ってきました。

今年の9月は雨続きで中止の心配もありましたが、週間予報ではなんとか23日は晴れそうだった事から、当初の計画を1日短縮した行程へと見直し、貴重な晴れを狙った山行へ出発しました。



22日（土）

5:00 に合流し、いわきを出発。

12:00 頃に新穂高ロープウェイしらかば平駅に到着し、ロープウェイを利用し西穂高口駅へ。

降りた直後は雨でしたが、雨雲レーダーではこれから東へ抜けてくれそうな気配だった為、1 時間程度駅で待機し、頃合いを見て出発。西穂山荘へ到着しました。

「この雨でお客さんは少ないのでは？」と内心淡い期待を抱いていましたが、私たちと同様に皆さん明日の晴れを狙っていたようで山荘は激混み。テント場もすでにほぼ埋まっている状況でした。

受付を済ませ、なんとかスペースを見つけテントを設営。

今回の山行では渡辺さんが新調されたダンロップと一緒に使わせていただきましたが、やはり新しいテントは良いですね！ありがとうございます！私も新調したくなりました（笑）

山荘の混み具合から、明日のルートやテント場も混雑が予想される為、出発を予定より早め起床は3 時とし、軽く天気祭りを済ませて就寝。雨雲は夕方には通り過ぎてくれました。

23 日（日）

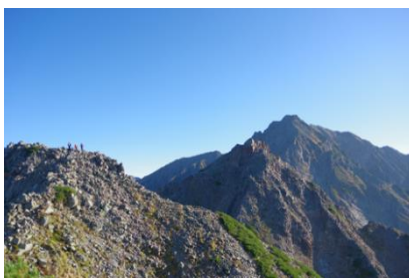
若かった頃はいつまでも寝ていられた事を覚えています、歳を取るとそうもいかなくなりますね。前日 18 時過ぎには寝てしまったので、目が覚めたのは1 時頃。そこからはうまく寝付けず困りましたが、きれいな星空を見ることができました。

3 時起床、4 時出発。満天の星空。ヘッドランプの明かりを頼りに歩き始めます。すでに出発されてる方の明かりが西穂独標の漆黒のシルエットを飾り、独特の迫力を見せてくれました。

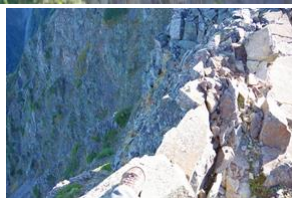


天候は期待通りの晴れ。徐々に明るくなっていく中、西穂独標・ピラミッドピークや5 峰・4 峰・3・2…と岩稜帯のアップダウンを進み西穂高岳（2909）m へ到着。

切れ落ちた稜線を慎重に進み、浮き石だらけの間ノ岳を通過、逆層で滑り落ちそうな天狗の頭へ。



要所要所には鎖が張られていますが、天候により難しさが激変するのだろうと容易に想像出来ます。



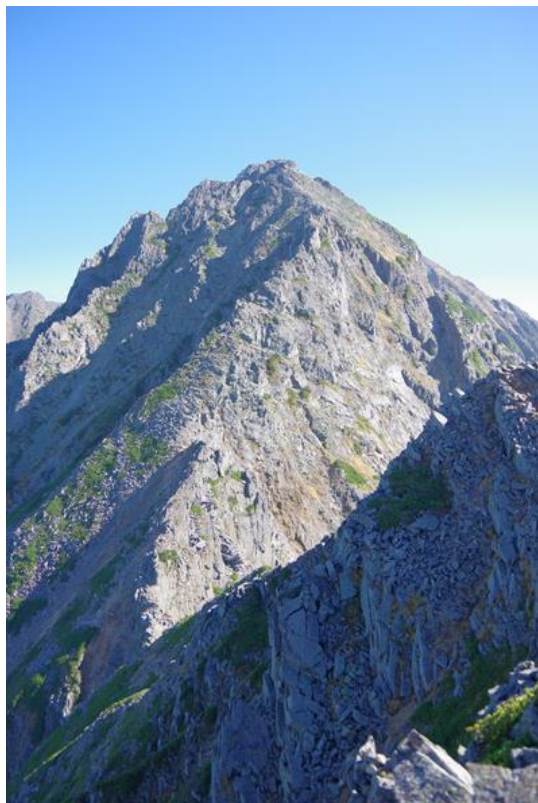
天狗の頭を通過したあとは天狗のコルと呼ばれる分岐まで一度だいぶ下ります。コブ尾根と呼ばれる目の巨大な岩の城をこれから登り返す事になるため、一段下るごとに気持ちが滅入りそうになりますが、この先に控えるジャンダルムを目指し、長い登りへ取り付きました。

背負う荷の重さを辛抱しながら、一手一手体を引き上げコブ尾根の頭へ。多くの方を魅了するジャンダルム（3163m）が目の前に現れます。

荷物をデボしジャンダルム頂上へ。渡辺さんとここまでの道のりを祝いあい、周囲のパノラマに目を奪われていたところ、ここで周囲の様子がおかしい事に気がつきました。

コブ尾根の頭からは、ジャンダルムへの短い登攀と奥穂高へ向かう登攀ルートの二手に分かれてますが、奥穂高へのルートが封鎖され、救助隊らしい方よりこれから救助活動があるため登山者は待機するようアナウンスが。

ジャンダルムの頂上で30分程度待機すると、やがて長野県警の救助ヘリが飛んできて、目の前で救助活動が始まりました。

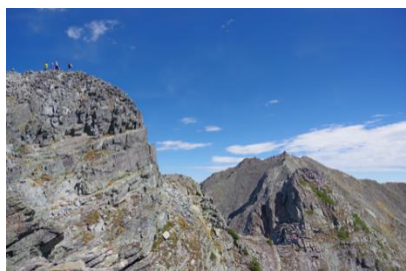


ホバリングするヘリからワイヤーに吊された救助隊員が下がっていき、やがて、要救助者を抱えてヘリに収容。その間5分程度で、ヘリは飛び去って行きました。

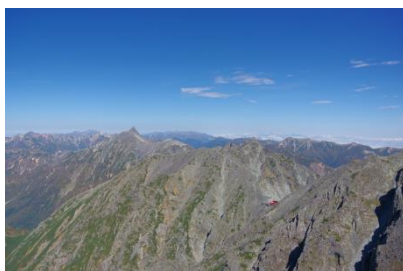
救助された方の意識はあったようで、どのような容態なのかは分かりませんでした。命に別状はないようでした。

救助される側はもちろん、救助する側も命がけの作業であることを改めて学ばせて頂いた次第です。

気持ちを引き締め直して出発。口バの耳・馬の背を越えて、奥穂高岳（3190m）へ到着。

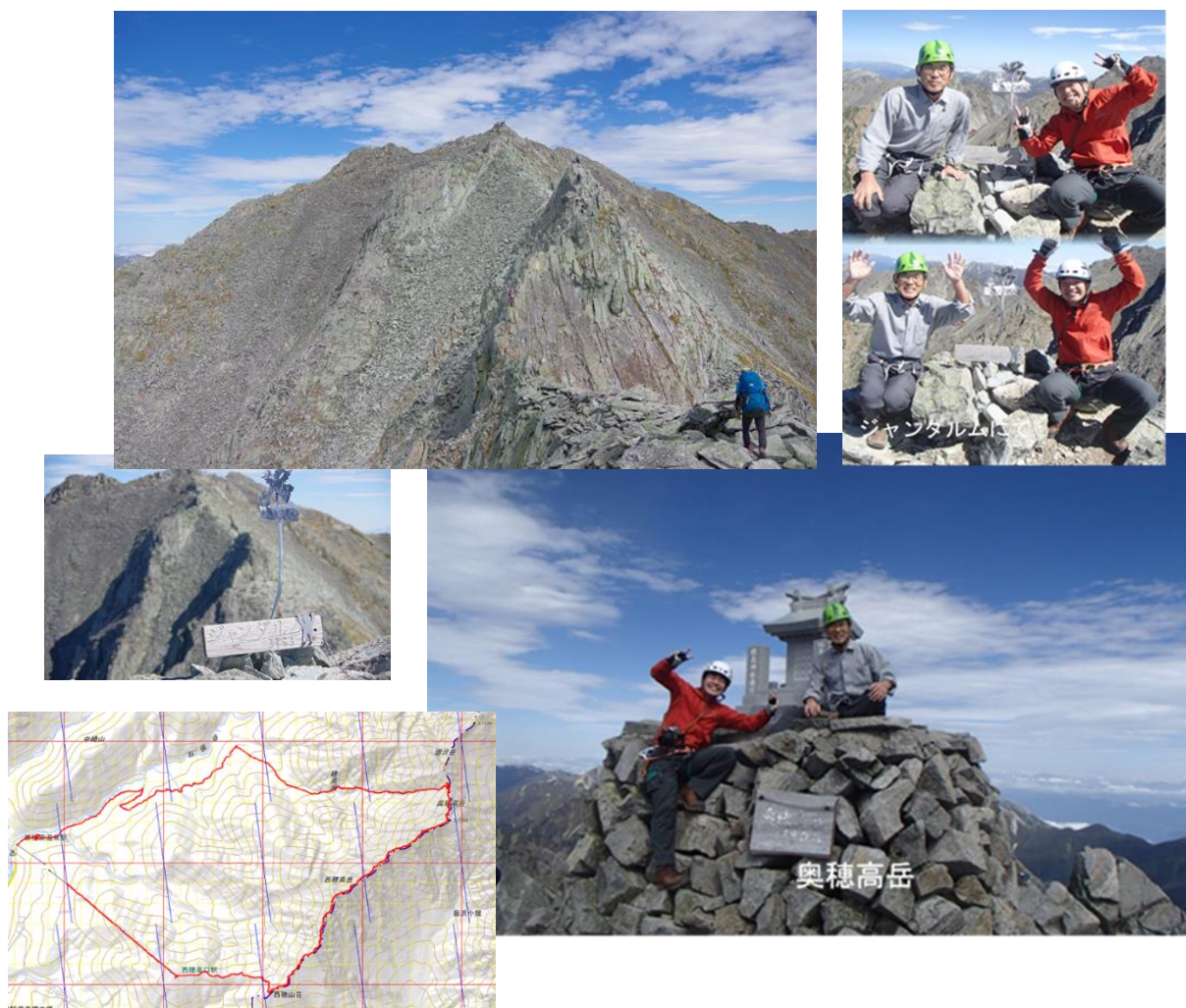


山頂から振り返ると、これまでの道のりが厳しく、どこか優しくも見え、その凜とした佇まいに心を打たれました。



穂高岳山荘へ下山。山荘近くでは登りと下りの登山者で混み合い30分程度の渋滞がありましたが、無事到着し受付。

やはり混み合うテント場でしたが無事寝床にありつけました。



24 日（月）

山荘を 5 時に出発。白出沢出合へ向けてのガレ場下り。実は私にはこれが一番大変でした。前日の登攀の繰り返しで両足太ももの筋肉痛を起こしてしまい、ガレ場下りで渡辺さんについて行けません（汗）「まだ若い証拠だ」と渡辺さんには笑い飛ばされますが、必死に下ります。

荷物をここに置いて帰ろうかと何度目か考えているうちに、ガレ場から沢沿いの道に変わり、やがて白出沢出合へと到着。新穂高ロープウェイに向け穏やかな林道歩きへと変わっていきました。

今回短縮せざるを得なかったルートと、テントの中で話した新たな目標を心に留めつつ、そして自身の修行の足りなさ（苦笑）を痛感しながら、今回の山行も無事終了出来た事をここにご報告いたします。



（文責：伊藤）

コースタイム

22 日（土）ロープウェイ西穂高口 12:23 13:20→14:21 西穂山荘

23 日（日）西穂山荘 4:11→5:11 西穂独標 5:18→6:36 西穂高岳 6:44→7:47 間ノ岳 7:58→8:32 天狗の頭 8:41
→10:25 ジャンダルム 11:43→12:55 奥穂高岳 13:02→13:53 穂高岳山荘

24 日（月）穂高岳山荘 5:15→6:57 鉱石沢 7:16→重太郎橋 7:36→白出沢出合 8:26→9:45 新穂高温泉駅